

令和7年度 第3回守谷市文化財保護審議会 会議次第

日 時 令和8年3月9日（月曜）
10：30～
会 場 守谷市役所 小会議室1

1. 開会のことば

2. あいさつ

3. 議 題

（1）事業概要について

①令和7年度文化財保護事業報告

②令和8年度文化財保護事業計画（案）

（2）その他

・永泉寺「聖徳太子立像」の県調査報告について

4. 閉会のことば

議題

(1) 事業概要について

令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画（案）についてご報告します。

(2) その他

・永泉寺「聖徳太子立像」 県調査の報告書について

令和7年9月29日に自主研修として、永泉寺「聖徳太子立像」の県調査に同行させていただきました。茨城県文化財保護審議会 浅見委員（東京国立博物館副館長）による調査報告書を県よりいただきました。別紙をご覧ください。

こちらの報告書は確定版ではございませんので、外部公開はしないようお願いいたします。なお、ファイバースコープによる追加調査は来年度（6月頃）行う予定です。

県指定されている他市町村の「聖徳太子像」計7件の情報をまとめましたので、参考資料としてご覧ください。

1 令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画（案）について

(1) 令和7年度文化財保護事業報告

事業名	内容
<p>文化財保護審議会</p> <p>自主研修会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和7年5月12日（月曜） 会場：市役所 小会議室1 ・第2回 令和7年10月22日（水曜） 会場：市役所 小会議室1 ・第3回 令和8年3月9日（月曜） 会場：市役所 小会議室1 ・令和7年9月29日（月曜） 永泉寺「聖徳太子立像」県調査見学
<p>文化財調査事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○開発に伴う埋蔵文化財試掘調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ひがし野3丁目30番3、-4（城内遺跡） 令和7年4月15日実施 遺物・遺構確認されず ・本町932-56（城内遺跡）※基礎解体時立会 令和8年6月3日、6日実施 遺物・遺構確認されず ○指定文化財地草刈実施 <ul style="list-style-type: none"> ・廿三夜尊 中坪ふれあいクラブ ・一里塚 赤法花町内会 ・守谷小学校西側土塁 城内町内会 ○樹勢回復業務 <ul style="list-style-type: none"> 廿三夜尊エノキ（市指定文化財天然記念物） <ul style="list-style-type: none"> ・害虫防除実施 （令和7年7月3日、令和7年10月10日） ・低木刈込 （令和7年7月3日、令和7年11月21日）

文化財保護事業

- 新規指定文化財 指定柱・説明板設置
 - ・雲天寺（守谷市本町）
 - ・清瀧寺（守谷市板戸井）
（令和8年3月13日、14日施工予定）

- 守谷の歴史満喫ロゲイニング
（令和7年11月9日開催）40名参加

- はにわ作り体験教室
（令和7年10月12日実施）13名参加

- 「守谷市デジタルミュージアム」コンテンツ追加
 - ・天然記念物 スダジイ（海禅寺）、エノキ（廿三夜尊）のパノラマ動画作成
 - ・新規指定文化財3点のデジタルアーカイブ化
 - ・キッズページにクイズ（もりやっこ検定～目指せ守谷博士～）、ジグソーパズル追加

- その他
 - ・文化財保護指導委員県南担当（取手市立高井小学校山崎先生）による文化財巡視活動同行
令和7年8月8日
同地古墳群、同地貝塚、永泉寺東遺跡、山ノ神遺跡、板戸井屋敷後遺跡、瓜代遺跡

 - ・茨城県南教育事務所埋蔵文化財指導員による文化財の現況確認同行
令和7年8月26日
木造釈迦如来坐像（大円寺）、小菅家住宅表門、板戸井中屋敷遺跡

 - ・文化財巡視報告会
令和7年9月3日 土浦合同庁舎
令和8年2月12日 龍ヶ崎市歴史民俗資料館

 - ・文化財防火デー消防検査（常総広域消防本部、守谷消防署合同）
令和8年1月26日 大円寺

(2) 令和8年度文化財保護事業計画（案）

事業名	内容
<p>文化財保護審議会</p> <p>自主研修会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和8年5月（予定） ・第2回 令和8年9月（予定） ・第3回 令和9年3月（予定） <ul style="list-style-type: none"> ・時期未定（10～11月頃）、1回程度実施
<p>文化財調査事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○開発に伴う埋蔵文化財調査 <ul style="list-style-type: none"> ・包蔵地内での開発がある場合、試掘調査を実施 ・包蔵地外での開発行為は、状況により判断 ・板戸井屋敷後遺跡での大規模開発（1.7ha）に伴う試掘調査（時期未定） ○埋蔵文化財以外 <ul style="list-style-type: none"> ・有形、無形の未指定文化財の調査（随時実施） ・県による永泉寺「聖徳太子立像」のファイバースコープによる追加調査（6月頃予定とのこと）
<p>文化財保護事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指定文化財地草刈り <ul style="list-style-type: none"> ・廿三夜尊 中坪ふれあいクラブ ・一里塚 赤法花町内会 ・守谷小学校土塁 城内町内会 ・守谷城址馬出曲輪 守谷市観光協会 ○廿三夜尊エノキ（市指定文化財天然記念物） 害虫防除、低木刈込 7月中旬以降に実施予定（年2回） ○文化財説明板・標識柱清掃（4月予定） ○文化財説明板・標識柱更新（1枚、1本） 老朽化しているものから実施

○守谷の歴史満喫ロゲイニング（11月文化財保護強調週間に実施予定）

○親子を対象とした清瀧寺「熊野観心十界曼荼羅」
絵解きイベント

※御開帳が8/1～8/20（猛暑の時期）になるため諸々
検討中

○文化財イベント（10月11日実施予定）

※「はにわ作り体験教室」と「貝塚のひみつをさぐる
（貝塚テラリウム作成）」のどちらかで検討中

○文化財のデジタルアーカイブ化

・指定文化財のアーカイブ化

候補：徳川家康寄進状（長龍寺）

阿弥陀一尊種字板碑（3D撮影）

古文書

・キッズページにコンテンツ追加

デジタルすごろく

守谷城アニメーション

もりやっこ検定 5問追加

ジグソーパズル 3点追加

・小3、4社会科副読本「守谷市（令和8年度版）」
の登載

茨城県指定有形文化財 彫刻「聖徳太子像」(7件)

1. (立像)



坂東市妙安寺

数 1 軀

寸法 像高 98.7cm

指定年月日 昭和 30 年 1 月 25 日

所在地 坂東市三村 1793

管理者 妙安寺

制作時期 室町時代

櫃(かや)材を用い彩色(さいしき)、玉眼嵌入(ぎよくがんかんにゆう)の像。頭部、体部、両肩部、像下端など二材付けです。

太子 16 歳の孝養(こうよう)の像で、衣には朱色と黒の宝相華文(ほうそうげもん)の文様を置き、美豆良(みずら)の髪形です。その相貌はややあがった大きめの両眼を刻み、頬は肉取りも張りがあるって聡明な太子の相をよく表しています。

2. (立像)



常陸大宮市照願寺

数 1 軀

指定年月日 昭和 33 年 7 月 23 日

所在地 常陸大宮市鷺子 2236-1

管理者 照願寺

制作時期 鎌倉時代

聖徳太子が 16 歳の時、父用明天皇の大病に際し、柄香炉(えこうろ)を持って見舞に行くときの姿です。

3. (立像)



下妻市光明寺

数 1 軀

指定年月日 昭和 59 年 3 月 8 日

所在地 下妻市下妻乙 350

管理者 光明寺

制作時期 室町時代初期

衣冠束帯(いかんそくたい)の摂政太子像(せっしょうたいしぞう)です。

檜材、寄木造、白土下地(したじ)彩色(さいしき)、玉眼嵌入(ぎょくがんかんにゅう)、像高 65cm です。

太子の像容は、3 歳の南無太子像(なむたいしぞう)・16 歳の孝養像(こうようぞう)・壮年期の摂政太子像・衣冠束帯像・馬上太子像などいろいろな姿があります。

県内の浄土真宗寺院には多くの太子像が残されていますが、そのほとんどが孝養像で、このような摂政太子像は、県内は無論、全国的にも数少なく、その内でも優れた作品といわれています。

なお、像を安置する黒漆(くろうるし)箱形厨子(ぐし)の框裏(かまちうら)には天正 9 年(1581)の墨書銘(ぼくしょめい)があります。

4. (立像)



古河市光了寺

数 1 軀

寸法 像高 96cm

指定年月日 昭和 63 年 1 月 25 日

所在地 古河市中田 1334-1

管理者 光了寺

制作時期 鎌倉時代前期

一軀、像高 96cm、寄木造・玉眼・彩色(さいしき)です。頭髪を美豆良(みずら)に結び、ふっくらとした顔に童形を表し、袍(ほう)をまとい、袴(はかま)をはき、沓をはいています。

銘記(めいき)・作者ともに不明ですが、慶派(けいは)らしい線の太さと彫り口の確実さは、鎌倉時代前期の良さがよく表れています。

一般に太子像は、童子から壮年期まで沈鬱な表情に造られますが、この七歳像(松葉太子像)は毅然とした中に明るさを漂わせた面貌につくられています。

美術的にも、年代的にも、また、七歳像の稀少性からも貴重です。

※松葉太子像：両手に「松葉」を持つ。可愛らしい様子から、幼少期の姿を指して「松葉太子」の愛称で親しまれている。聖徳太子が3歳の時に、父(後の用明天皇)から「桃の花が好きか、松の葉が好きか」と問われ、「桃の花はいつときの美しさ、松の葉は長持ちするめでたい木だから」と松の枝を選んだというエピソードから。

5. (立像)



常総市無量寺

数 1 軀

寸法 像高 124.7cm

指定年月日 平成 19 年 11 月 16 日

所在地 常総市菅生町 5028 番地

管理者 宗教法人無量寺

制作時期 鎌倉時代(正安 3 年=1301)

像は髪を正中(せいちゅう)で左右にわけ、両耳上で束ね、元を結び、角髪(みづら)にあらわしています。筒袖(つつそで)の內衣上に盤領(あげくび)、大袖、闕腋(けってき)の袍(ほう)を着け、筒状の袴(表袴 うえのはかま)を履き、袈裟と横被(おうひ)を懸けています。両手を屈指胸前で左を内に、右を外にして柄香炉(えこうろ)を握り、沓を履く、いわゆる聖徳太子十六歳の孝養(こうよう)太子像です。

檜(ひのき)材の寄木造、玉眼嵌入(ぎょくがんかんにゅう)です。頭部は一材製、前後に割矧(わりはぎ)、内刳(うちぐり)を施し、首柄(くびほぞ)を体部に差しています。体幹部も一材製、前後に割矧、内刳、両肩外側部を各矧付け、左体側部は上下二材矧ぎ、右体側部は一材製、ともに内刳を施し、両手先各差込み矧ぎです。

両足首以下も各別材製で、上下に貫通する柄孔(ほぞあな)をうがち、これに各別材製の足柄(あしほぞ)をつくり、新補の框座(かまちぎ)上に直立しています。像内体部背面内刳り部分に正安 3 年(1301)造立の墨書銘(ぼくしょめい)があります。

6. (立像)



常陸大宮市常弘寺

数 1 軀

指定年月日 昭和 47 年 12 月 18 日

所在地 常陸大宮市石沢 1467

管理者 常弘寺

制作時期 室町時代

柄香炉(えこうろ)を左にもち、右には笏(しゃく)を持っています。

垂髪(すいはつ)の末端が顔につくようになっています。首は差込みで銘文があり、「永禄六年仏師野州住人」(1563)とあります。

太子孝養像(たいしこうようぞう)かと思われます。地方作ですが、製作年代のある参考仏です。

7. (坐像)



日立市金沢町 覚念寺(毘沙門組太子像保存会)

数 1 軀

寸法 像高 31.5cm

指定年月日 昭和 57 年 3 月 4 日

所在地 日立市金沢町 4-14-24

管理者 毘沙門組太子像保存会

制作時期 室町時代末頃

像高 31.5cm、檜材の寄木造、胡粉下地彩色(ごふんしたじさいしき)、玉眼嵌入(ぎょくがんかんにゆう)の像です。銅板製かと考えられる冕冠(べんかん)は失われてしまっていますが、赤地に鳳凰丸文(ほうおうまるもん)の袍衣(ほうい)に袈裟を着けて安坐し、左手に麈尾(しび)を執り、右手の掌を上に向けて膝上に置く聖徳太子が、勝鬘經(しょうまんきょう)を講ずる姿を表した講讚太子像(こうさんたいしぞう)です。

講讚太子の彫像は、奈良法隆寺絵殿(ならほうりゅうじえでん)の治暦 5 年(1069)作の像が古いですが、作例は少なく、しかも、現存遺品の大部分は奈良県の太子関係寺院に伝来しています。その点、本像は地方に伝わる像として珍しい一例です。

国指定「聖徳太子像」



水戸市善重寺

員数 1 軀

指定年月日 大正4年8月10日

所在地 水戸市酒門町2096-2

管理者 善重寺

年代等 鎌倉時代

寄木造(よせぎづくり)、玉眼嵌入(ぎょくがんかんにゅう)、彩色で、像高は132.5cmです。延宝6(1678)年、徳川光圀が寄進したもので、髪を美豆良(みずら)に結び、袍衣(ほうえ)に袈裟(けさ)をかけ、左手に柄香炉(えごうろ)をもち、その一指で衣の端をとり、右手に笏(しゃく)をとる姿は、16歳の時、父用明天皇の病氣平癒(へいゆ)を祈ったという孝養太子の像です。像は全面に華麗な彩色を行い、面相の毛描きも巧みですが、とくに着衣には宝相華文(ほうそうげもん)、鳳凰丸文(ほうおうまるもん)、輪宝文(りんぼうもん)などの盛上彩色が金泥描きを混えて細緻にほどこされています。これらの技法は鎌倉時代末頃の特徴を示しています。眦(なまじり)の上った大きな眼、肉取りの若々しさなど叡智(えいち)をたたえる太子の相をよく示しています。鎌倉時代に盛んになった太子信仰にともない数多く制作された太子像中の優作です。